

水田の難防除雑草防除法

(農試技術部・県南分場)

近年、水田雑草の防除はほとんどが除草剤を利用して行われており、その中で一発型除草剤の普及面積が増加の一途をたどっている。しかし、これらの除草剤の連用や拾い草の省略によって、難防除雑草と呼ばれる多年生草種が残草となり、各地で問題となってきている。

そこで、難防除雑草のうちオモダカ、クログワイ及びシズイの生態的特徴と、耕種的方法を中心とした雑草防除法を明らかにし、普及指導上の参考に供する。

塊茎を主な繁殖器官としているこれらの雑草は、乾燥や冬期間の凍結に弱く、また、田畑輪かんなど他作物との競合にも弱いという特性を利用して防除する。

表-1 耕種的防除法 (◎: 効果大 ○: 効果あり ? : 効果不明)

防除法 草種	秋耕	遅植	密植	中干し 間断灌漑	田畑輪かん 冬作導入
オモダカ	◎	○	○	◎	◎
クログワイ	◎	◎	◎	◎	◎
シズイ	○	?	○	?	○
	冬期間の乾燥・凍結により塊茎の枯死をはかるプラウ(反転)耕での効果大、乾燥状態必要	雑草の生育前半の光遮断、水稻との競合により塊茎の形成量減少		常時湛水、湿田深水栽培田で雑草の発生多い	湛水するような休耕田では雑草の発生量多い

しかし、表に示した耕種的防除法だけでは難防除雑草を完全に防除することはできない。そこで、水田雑草の発生診断に基づいて、次のような除草剤による薬剤防除を組み合わせることによって、安価で効果の高い雑草防除が可能となる。

- (1) 7月上旬の残草量が、オモダカ、クログワイ1本/1㎡以下、シズイ5本/1㎡以上の場合……SU型(スルフォニルウレア型)一発除草剤、初期剤+SU型除草剤または、初期剤+中期剤や従来型一発剤に後期剤としてベンタゾン剤を組合わせた使用法を1~2年連用
- (2) 7月上旬の残草量が、オモダカ、クログワイ2本/1㎡以上、シズイ5本/1㎡以上

の場合……S U型一発除草剤+ベンタゾン剤の1回または2回処理を2～3年連用。

指導上の留意事項としては、

- (1) オモダカ、クログワイ、シズイなどの生態的特性は発生する地域、年次などによって、やや異なるので注意する。
- (2) 難防除雑草の防除には、耕種的防除と除草剤による防除を組み合わせることで効果が高まる。
- (3) 除草剤の使用に当たっては、岩手県雑草防除基準を厳守すること。なお、ベンタゾン剤およびベンタゾン混合剤は水和剤や液剤の効果が高く、使用量は、700g/10aまたは700ml/10aが適使用量である。
- (4) 難防除雑草に有効な除草剤は、高価なものが多くしかも2～3年連用が不可避である。したがって使用に当たっては、水田雑草発生診断（平成元年度：指導上の参考事項）を行い、できるだけ低コストな除草剤の使用、処理方法を選択する。